2005. Sep. Vol.56

Come HIA

Hyogo International Association

CONTENTS

ズームアップ…… 2

芸術を通じた国際交流

われら地球人…… 4

ひめじ発世界

ふれんずinひょうご…… 5

音楽家 **エリック・コロン**さん

HIAアラカルト…… 6

がんばる留学生を支援 ほか

HAT神戸　News Clip ●世界の食卓から●メッセージボード…… 8

神戸ムスリムモスク（神戸市）

昭和10年、インド地域からの貿易商らによって建てられたイスラム教の教会。伝統的なドーム屋根と2つのミナレット（尖塔）を持つトルコ様式の建物は、荘厳な雰囲気を醸し出し、洋館が立ち並ぶ界わいの中でも異彩を放っています。

芸術を通じた国際交流

優れた芸術や文化は言葉や国を超えて人々を感動させます。兵庫県でも、外国の優れた芸術を紹介したり、外国人アーティストを招へいするなど、芸術を通じた国際交流が行われています。また、海外事務所でも地域の特色を生かした芸術交流事業を展開。さまざまな場所で各国の芸術が紹介され、それを楽しむことによって相互理解が図られています。

▲パリで震災復興への感謝の気持ちを伝えるカメラータ神戸

▲パリ事務所内で開催しているサロン・ド・ヒョウゴ

▲「JET ART」出展作品で話をはずませる来観者

ひょうご国際プラザで展覧会を常時開催

兵庫県国際交流協会では、ひょうご国際プラザ「交流ギャラリー」を活用して、国際交流・国際協力に関する展示会を開催するほか、兵庫にかかわりのある外国人の方々の芸術作品を紹介しています。それぞれの会期はまちまちですが、ほぼ一年中、パネル展や展覧会が開催されており、さまざまな作品に触れることができます。

例えば、昨年に開催した「タンザニア・アート&カルチャー展」。タンザニアの自然や日々の暮らしを色彩豊かに描くタンザニア独特の〝ティンガティンガ・アート〟やマコンデ族の世界的に有名な木彫りである〝マコンデ・アート〟など珍しい作品がそろいました。

また、外国人アーティストの作品も積極的に紹介しています。昨年は、中国で活躍する内モンゴル出身の水彩画家龐利権さん、中国の書道家である任欽功さんなどを招きました。「任欽功書道展」の際は、任さんが来場者のリクエストに合わせて即興で作品を創作する場面も。まさに芸術を通じた交流が図られました。

最近開催した展覧会では、兵庫県に滞在しているＪＥＴプログラム参加者11人の芸術作品を紹介。県内の学校で外国語教育を担当したり、兵庫県の国際交流課で国際交流活動に従事するＪＥＴ青年たちの素顔がのぞく作品が並びました。

「芸術を通じて、それぞれの国の文化や特異性や可能性、普遍性を感じ取っていただければ幸いです」と協会のギャラリー担当者。今後、どんな国の芸術と出合えるのか楽しみです。

各地の海外事務所でも芸術交流を支援

兵庫県パリ事務所ではPR事業として、事務所スペースを芸術家に個展会場として提供する「サロン・ド・ヒョウゴ」を毎年開催しています。昨年度は、パリ・モンマルトル在住のフランス人画家4人の作品を展示。展覧会の初日には大勢が集まって、恒例のヴェルニサージュ（オープニング）も行われました。また、西オーストラリア州・兵庫文化交流センターでも、現地で日本文化を学ぶ人たちに対して会場の提供を行っています。ちぎり絵や能面、版画、書道など、日本の美術工芸の作品展示や、琴のコンサートなどをセンターで開催し、多くの観客を集めています。

海外事務所の芸術交流支援は会場の提供にとどまりません。数々の芸術イベントも開催しています。

パリ事務所では6月21日にパリの日本国大使館で「阪神・淡路大震災10周年記念イベント」を開催。その中で、記念コンサート「Lux in Kobe Concerts 2005」が行われました。出演したのは、神戸市の声楽家、鼓呂雲（コロン）

ZoomUp（ズームアップ）

▲オープニングセレモニー後にぎわう「タンザニア・アート&カルチャー展」

▲シュレスヴィヒ・ホルシュタイン祝祭管弦楽団神戸公演

▲来場者のリクエストに応じる任欽功さん

神戸学院大学でも 海外の優れた芸術を招へい

6月25日、神戸学院大学のグリーンフェスティバルにおいて、中国の越劇の公演が行われました。同フェスティバルは優れた演劇やクラシック音楽を紹介するイベント。海外からも京劇などが招へいされ出演しています。今年は、女性だけで演じられ、中国の宝塚歌劇ともいえる越劇が詩情あふれる舞台を披露しました。この日は越劇のメンバーと、宝塚歌劇団のメンバーが参加するレクチャーデモンストレーションも行われ、両劇団の芸術性について、改めて認識する場となりました。

由子さんが代表を務める声楽アンサンブル「カメラータ神戸」。カメラータ神戸は震災直後に結成され、被災地を励ますコンサートを行ってきました。震災10周年を迎え、世界の人々に感謝の気持ちを伝えるために、今年1月から神戸はもとより、東京や名古屋、フランス、ベルギーなど十数カ所でコンサートを開催しています。

パリで行われたコンサートでは、オリジナルのミサ曲「Lux in Kobe」や「竹田の子守唄」などを披露。歌の合間には震災当時と復興を果たした現在の神戸の様子が映像で紹介されました。

「観客の皆さんからとても盛大な拍手をいただきました。震災に対する思いが、言葉ではなく、音楽という芸術によって、国の壁を超えて海外の方にも伝わったと感激しています」と鼓呂雲さんは話します。

友好州との音楽交流や 劇団同士の交流も

今年は兵庫県とドイツのシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州の友好交流10周年の記念の年。これを記念して、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン祝祭管弦楽団が来県しました。7月29日に神戸国際会館こくさいホールで行われた「シュレスヴィヒ・ホルシュタイン祝祭管弦楽団神戸公演」では、震災の犠牲者のレクイエムも演奏。観客を感動の渦に巻き込みました。また、8月にシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州で行われた欧州最大級の音楽イベント「シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭」には、兵庫県から「和太鼓松村組」が出演。音楽を通じた相互交流を行いました。

また、アメリカ合衆国・ワシントン州との交流も一昨年で40周年を迎えました。それを記念して、シアトルで行われた兵庫県立ピッコロ劇団の公演は大成功に終わり、多くの喝采を浴びました。この公演をきっかけに、ピッコロ劇団はワシントン州にあるユースシアター・ノースウエスト（18歳までの青少年が所属）と交流を開始。その一環として、今年の1月から3月にかけて、ピッコロ劇団の劇団員、瀬口昌生さんがユースシアターでの演劇指導方法を学ぶために渡米しました。コミュニケーションを大切にしながら優れた舞台芸術を創造してきたピッコロ劇団。その交流の輪は海外にも広がっています。

県内で、そして海外で盛んに行われている芸術による国際交流。そこに言葉は必要ありません。これからも素晴らしいものを素晴らしいと思う心で、互いに認め合いながら、いっそう理解を深めていくことでしょう。

国際交流・協力活動に携わる団体を紹介します

われら地球人 ひめじ発世界

6カ国語対応で悩みにこたえる

日曜日の昼下がり、姫路市のイーグレひめじ4階の相談室では、ある外国人が自分の国の言葉で相談にのってもらっています。

「バイト先の人が賃金を払ってくれません」

「労基署や法律家にどうすればいいか聞いてみましょうか」

悩みや相談に応じるのは、ボランティアグループひめじ発世界のメンバーです。すぐ答えられない質問や内容であれば、ほかのボランティアグループやNGOに聞いたり、外部協力者や行政の窓口に相談したり。さまざまな質問に6カ国語で対応しています。

外国人支援、多文化共生などをテーマにボランティア養成講座を開催

「対応言語はスペイン語、ポルトガル語、中国語、英語、ベトナム語、そしてやさしい日本語。姫路は日系人の方やベトナムからの難民が多い地域なんですが、皆さん働いてらっしゃるので、日曜日でないと相談に来られないんです。日曜日の午後に相談窓口を開設しているのは、ほかにあまりないと思います」と言うのは代表の高嶋俊男さんです。

ひめじ発世界は13年前に結成。もともとは、国際協力に意識の高い市民が集まって勉強会などを開催していました。そのうち、自分たちの地域で何かできることはないだろうか、ということになり、6年前から多言語による医療相談を開始。昨年から相談の内容を広げ、いろいろなジャンルの問題に対応するようになりました。

「例えば電化製品の取扱説明書が難しくて読めないとか、携帯電話の料金システムがよく分からないとか。外国人ならではという質問より、むしろ日本人でも同じことを思っているのでは、というような質問が最近は多いです」

日本人なら近所の友達にちょっと聞けば済むことでも、外国人だとなかなか解決できません。そんなささいなことを聞きに来られるアットホームな場所にしたいと高嶋さんは言います。

相談に応じられる専門知識を得るために、メンバーでテーマごとの勉強会も行っています。教育や医療、法律などの専門家を講師に招き、さまざまなケーススタディを中心に研修。この勉強会はメンバーに限らず、だれでも参加できるように門戸を開いているそうです。

「相談活動を行うようになって、私も協力したいと思っている方がたくさんいることが分かりました。そんな方に仲間になってもらえるよう、相談ボランティア養成講座も開いています」

相談者と一緒にバーベキューで交流

そして一番うれしいのは、かつて相談窓口に訪れた人が〝自分も通訳として協力したい〟と言ってくれること。実際に何かあればかけつけてくれる外国人や外部スタッフがいるそうです。

「自分と同じ国の人が相談窓口にいたらそれだけで安心できますよね。そのうち多国籍での相談体制を実現したいと思っています」

外国人も日本人もみんなが安心して住める、だれにでも優しい社会をめざし、ひめじ発世界は今日も〝Think globally, act locally〟の精神で活動を続けています。

●外国人相談電話・面談 TEL(0792)87-0821
第2・第4日曜、午後2時～5時
姫路市国際交流センター相談室
(イーグレひめじ4階相談室)

相談内容に応じて、相談員や通訳、専門家らが親切に対応

あなたも参加しませんか

メンバーとして活動できる人、相談活動に協力できる人などを募集しています。なお、9月10日(土)と10月8日(土)に相談ボランティア養成講座を実施します。気軽にお問い合わせください。

ひめじ発世界
〒671-1205
姫路市勝原区大谷210-8
TEL FAX(0792)74-3045
(高嶋さん方・夜間のみ)
E-Mail fromhimeji@msn.com

ERIC COLON
エリック　コロン

音楽家

●プロフィール
1938年ベルギーの古都ゲントに生まれる。ブリュッセル王立音楽院在学中、ギターの巨匠アンドレス・セゴビアに秀でた才能を認められ、彼の元でギタリストとして研さんを積む。演奏家としてアメリカで活躍後、1970年、ベネズエラ国立音楽学校の学長に就任。1989年に来日。フランドルの洗練された作曲技法と欧州・南北米の文化を熟知した作品、優れた感性が世界各地で高い評価を受けている。

震災犠牲者への レクイエムを作曲

多くの犠牲者を出した阪神・淡路大震災から10年。今年に入り、各地で震災復興イベントが開催されています。声楽アンサンブル「カメラータ神戸」が行う「Lux in Kobe Concerts 2005」もその一つ。身近に起こった生死のドラマから得たメッセージと希望を音楽に託し、各地で演奏活動を行っています。

このコンサートのために作られたオリジナルの鎮魂歌が「Lux in Kobe（神戸の光）」。作曲したのは、自らも被災したエリック・コロンさんです。

「震災を経験して、まず生き残ったことに感謝しました。そして、私にできることは音楽しかないと思い、被災者を励ますための演奏活動をカメラータ神戸とともに行ってきました。10年がたち、皆さんへの感謝の気持ちと未来への希望を曲にしたいと考えたんです」とコロンさんは話します。今年1月から始まったコンサートでは各地で盛大な拍手や感動したという言葉を得て、本当に音楽の力を実感したといいます。

近年は平和への強い願いを込めた作品も発表。2001年に長崎浦上天主堂で被爆のマリアに捧げられた「アヴェマリア」は社会的な反響が大きく、世界への平和のメッセージとしてCDもリリースされました。

「Lux in Kobe Concerts 2005」には指揮者として参加

「私が小さいころのベルギーは第2次世界大戦の激戦地でした。もうあんなことは繰り返してはいけません。震災はとても怖いものでしたが、もっと恐ろしいのは人間の暗部です」

専門家にはなりたくない

神戸市東灘区にあるお宅のリビングルームにはグランドピアノが置いてあります。ピアノの前で仕事をするコロンさんの横で譜面を見つめるのは、奥さんである声楽家の鼓呂雲（ころん）由子さん。カメラータ神戸の代表でもある由子さんは仕事の上でもプライベートでも頼れるパートナーです。

ベネズエラで生まれた子どもの教育のことを考えて来日し、いつのまにか20年が過ぎました。実はパイロットとして活躍していた時期もあるエリックさんですが、60歳を機に一切飛ぶことをやめたそうです。

「体力的なものもありますが、他にやりたいことがあるのも理由です。私は幅広くなんでもやってみたいんです。音楽だけになっても嫌だし、パイロットだけでも嫌。専門家にはならなくていい。いつまでも視野を広く持ち続けたいと思います」

目下の目標はロシア語を習うこと。今でも英語、フランス語、スペイン語、日本語を操るエリックさんですが、その向学心は衰えることはありません。世界中の言葉を習い、さまざまな国の文化を勉強したいと言います。

もちろん、音楽家としても、新しいことへの挑戦を考えています。

「日本人として初めてヨーロッパを公式訪問した天正の4少年の話をミュージカルにしたいんです。この時の日本文化と西洋文化の出合いや、言葉を超えた精神的なつながりなどを描きたいですね」

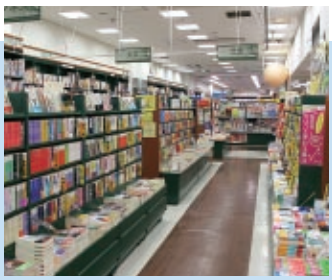
意欲的に語るコロンさんの傍らには、うなずきながらほほ笑む由子さん。二人の二人三脚はこれからも続きます。

一生勉強。毎日何かを得たい

音楽の道を歩む者同士、刺激し合う関係です

私のイチオシ

とにかく向学心が旺盛なエリックさん。夜寝る前に“今日は何を習ったか”と自問したというピタゴラスにならって、自分もそうしているそうです。特に書店は、新しい知識を与えてくれる場所としてよく利用するとか。ジャンルにこだわらず、真っ白な気持ちでぶらぶらすることが多いそうです。



「ComeHIA」のマスコット、カムヒアーズが兵庫の国際交流の動きをかわいく楽しくお伝えします

がんばる留学生を支援

兵庫県国際交流協会では、経済的支援の必要がある県内の大学、短大、大学院や専門学校日本語学科などに在学する私費外国人留学生に対し、奨学金を支給しています。

今年度は前年度に比べ、10.5%多い599人の申請がありましたが、年々増加する私費外国人留学生に対応するため、昨年度までの倍となる300人が審査の結果、選考されました。

7月16日に兵庫県公館で行われた受給者証の交付式には、在大阪中華人民共和国総領事館の孫建明領事にもご出席いただき、受給者証の交付が行われました。留学生を代表して神戸大学の付馨さんが「日本の生活でさまざまな方から支援をいただいていることについて感謝を申し上げるとともに、感謝を糧に学業に専念し、国際的な人材へと成長するため自分を鍛え、自分の専門領域、国際的な理解と親善において、一層役に立てるよう努力することで恩返しをしたい」とあいさつ。奨学金の支給に対する感謝と、留学生活の一層の充実に向けて決意を表明しました。

留学生代表のあいさつ

孫建明領事から留学生に激励のあいさつ

セーヌ・エ・マルヌ県から日本文化教師が帰国

兵庫県が平成16年度の日本文化教師としてセーヌ・エ・マルヌ県に派遣していた岡村綾子さんが、7月4日、9カ月の任期を終えて帰国しました。

岡村さんはマルヌ・ラ・ヴァレ大学で学術研究を行うかたわら、フォンテーヌブロー国際商業大学で日本語や日本文化を教える補助を務めたほか、セーヌ・エ・マルヌ県経済振興公社や観光局に協力して兵庫県や日本との交流促進のための助言、支援を行いました。そのほか、現地の学校を訪問するなど精力的に交流活動を続けた岡村さんは、「平成3年度からの交流を通じて、現地でも兵庫県の知名度が徐々に高まっていることを実感し、うれしく思いました」と総括。平成17年度は渡邊芽さんが渡仏します。

セーヌ・エ・マルヌ県から研修生が来県

兵庫県国際交流協会では、平成3年度からフランスのセーヌ・エ・マルヌ県の学生を企業研修生として受け入れています。今年度はフォンテーヌブロー国際商業大学に在学中のモルガン・セエディクさんが7月上旬に来県。9月下旬まで臨床検査機器のグローバルな総合メーカーのシスメックス株式会社で研修を受けています。同社でセエディクさんは製品の操作実習や工場見学、受注や需要予測などについて研修しています。

セエディクさんは、スペインや中国、デンマークでもインターンシップの経験がありますが、来日は今回が初めて。「日々いろいろと驚かされます。日本企業の風土や、マーケティング戦略のほかに、日本文化についても勉強していきたい」と抱負を述べています。

“交流の架け橋”

兵庫県内で勤務した後に帰国するJET青年、海外技術研修員などの中から帰国後も兵庫県での生活を通して育んだ経験や交流を生かし、兵庫県との“交流の架け橋”となり、PR活動を行う「ひょうご友好親善大使」。この夏帰国のJET青年の中から大使希望者21人をこのたび大使に任命。7月15日に任命式が行われました。

JETプログラムは地方公共団体が財団法人自治体国際化協会などの協力の下、外国語教育の充実や諸外国との相互理解の増進、国際化の促進を目的に外国青年を招致する事業です。JET青年は、外国語指導助手として学校で外国語を教えたり、国際交流員として各自治体の国際交流活動に携わり、地域の住民とさまざまなかたちで交流を深めています。

任命式では井戸知事が「兵庫県におけるこれまでの活躍に感謝を申し上げるとともに、この素晴らしい経験を忘れずに兵庫を第二のホームタウンとして末永い交流をしていただきたい」とあいさつし、一人ひとりに委嘱状を手渡しました。

大使を代表して、県の国際交流員として活躍したジョン・ファザーリンハムさんが、緑に囲まれた青垣町（現丹波市）と活気に満ちた神戸という兵庫県の2つの面を見ることができた素晴らしい体験に感謝し、「異文化相互理解促進のためにも母国と兵庫県間の友好関係を促すよう大使として活躍したい」と抱負を語りました。

ひょうご友好親善大使が井戸知事を囲んで記念撮影

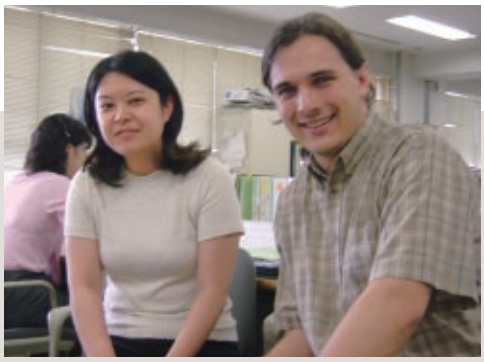
委嘱状を井戸知事から受け取る国際交流員のジョン・ファザーリンハムさん

夏休み中に日本語能力アップ

兵庫県国際交流協会では、県内在住の外国人を対象に、夏休み期間を利用して「夏期集中日本語講座（以下、夏期講座）」を開催しています。この講座の一部と講座終了後の午後は「日本語教育実践講座（以下、実践講座）」と名前を変え、日本語教育を専攻している大学生・大学院生の日本語教師養成の場にもなっています。夏期講座では定員を上回る140人余りが応募し、実践講座では12人の実習生が教壇実習に臨むことになりました。

7月21日にひょうご国際プラザ・交流ホールで開催された開講式とクラス分けテストには、用意した席がすべて埋まるほど多数の学生が出席しました。夏期講座は8月12日までの3週間、初級から上級まで5クラスに分かれて授業を行います。

国際交流のリーダー



ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ出身の沢田パトリシア由美さんと、アメリカのオハイオ州出身のカーティス・ガッターさんが兵庫県国際交流局の国際交流員として着任しました。

沢田さんは国際交流員としては初めて、外国人県民の子どものための母語教育支援に従事します。「一つ一つの仕事を順調にこなし、皆さんが望んでいる成果を出していきたい」と抱負を語っています。

一方、ガッターさんは外国語指導助手として1年間、西宮市内にある県立高校に勤務していましたが、「日本語を使う仕事という新しいチャレンジをしてみたい」という気持ちから、国際交流員を希望。翻訳や通訳をはじめ、学校を訪問して講演を行うなど国際交流活動に携わることになりました。

◆ HAT 神戸 News Clip ◆

開設を祝うテープカット

復興支援の総合的な窓口をめざして
国際防災復興協力機構

国際防災復興協力機構(International Recovery Platform:IRP)は、今年5月11日に国連機関やアジア防災センター、兵庫県などが共同で発足させた国際的な機関です。今年1月の国連防災世界会議の合意事項の一つとして開設され、アジア防災センターや国連機関などから集まった6人の職員で構成されます。主な活動内容は、①世界の被災地での災害復興優良事例を収集する「復興データベース」の構築、②復興や災害予防の調査・研究、復興計画に携わる人材の育成、③大規模災害が発生した際の被災国に対する復興支援などが挙げられます。

5月11日のテープカットに続き、13日までの3日間は、IRPの開設を記念して「国際防災復興協力セミナー」を開催。海外15カ国と国際機関などからの約80人を含む、300人以上の参加がありました。期間中は世界7都市をリアルタイムでつないで議論を行うビデオ会議や公開シンポジウム、テーマ別分科会など多種多様なプログラムを展開し、インド洋大津波後の復興支援などについての議論も行われました。今後、より多くの関係機関、関係国の参画を呼び掛け、世界の災害からの復興支援に取り組んでいきます。

国際防災復興協力セミナーの様子

世界の食卓から　ガリデス・サガナキ……ギリシャ

神田イリーニさん（加古川市）

ヤギのチーズを使ったオーブン料理

ギリシャは世界一のチーズ消費国。ガリデス・サガナキは、ヤギの乳から作られたフェタチーズを使った料理で、日曜の礼拝後に家族でよく食べたりします。見栄えもいいのでお客様へのおもてなし料理としても活躍する一品です。食べることにかけては、ヨーロッパでも有数の情熱を持つギリシャ人。素材のうま味を存分に引き出すため、料理方法はいたってシンプルです。

レシピ【5人分】

エビ10尾、トマト5個、タマネギ1個、ニンニク2片、白ワイン大さじ3、フェタチーズ（ミックスチーズでも可）適量、グレープシードオイル適量、塩・コショウ適量

1. エビは背に切り込みを入れ、背わたと足を取り、洗う。水気をふき取り、塩・コショウをかけておく。
2. 鍋にグレープシードオイルを熱し、みじん切りにしたニンニクを香りが出るまで炒め、エビを加える。
3. エビに火が通ったら白ワインを加え、蒸し煮する。
4. エビを取り出し、みじん切りにしたタマネギを透明になるまで中火で炒める。
5. 1㌢の角切りにしたトマトを加え、2、3分炒める。
6. エビを鍋に戻し、塩・コショウで味を調える。
7. 鍋から耐熱皿に中身を移し、細かく砕いたフェタチーズを載せ、200度のオーブンで約10分焼いたら出来上がり。

メッセージボード

●HAT神戸スタディツアー
HAT神戸内の国際関係機関・施設を見て、聞いて、学べるスタディツアーを実施中。プログラム内容はホームページhttp://www.hyogo-ip.or.jp/hatst/へ。

問い合わせ：兵庫県国際交流協会
☎078(230)3260

●HAT神戸国際メールマガジン
HAT神戸内の国際関係機関などが実施するイベント情報を毎月発信。配信登録はhttp://www.hyogo-ip.or.jp/magazine/からどうぞ。

●アメリカ大学留学フェア
アメリカ大使館商務部、日米教育委員会との共催により、「アメリカ大学留学フェア2005」を開催。留学フェアのほか、大学・大学院セミナーやアメリカ総領事館担当者によるビザ説明会、TOEFLコーナーも開催予定。詳しくはhttp://www.buyusa.gov/japan/ja/univfair.htmlへ。

開催日：10月31日(月)
場所：ひょうご国際プラザ・交流ホール

●HAT神戸フェスティバル
阪神・淡路大震災から10周年。震災復興のシンボルプロジェクトの一つ、「HAT神戸」を舞台に、これまでの復興の成果を広く発信するとともに、国籍や世代を超えた交流を深めることを目的としたイベントを開催。詳しくはhttp://web.pref.hyogo.jp/keikan/へ。

開催日：11月5日(土)、6日(日)
場所：HAT神戸・なぎさ公園周辺
問い合わせ：HAT神戸中心街区協議会事務局(兵庫県景観形成室内)
☎078(362)4363

2005.Sep.Vol.56
Come HIA
Hyogo International Association
2005年9月発行

発　行／(財)兵庫県国際交流協会
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1　国際健康開発センター2階
TEL (078) 230-3260　FAX (078) 230-3280
http://www.hyogo-ip.or.jp　E-mail hia@net.hyogo-ip.or.jp
編集協力／神戸新聞マーケティングセンター
Hyogo International Association
2Fl. IHD Center, 5-1,1-Chome,Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku,Kobe,Hyogo 651-0073

この印刷物は再生紙を使用しています。